

ONSEN・ガストロノミー・ツーリズムは未来を照らし出す！ ーパラダイムの大変革は、我々をしてヘルメスに誘うー



潘井 史郎 (雅之)

一社) 温泉ガストロノミーツーリズム・会長

東京都市大学・特別教授

岐阜県立森林文化アカデミー・学長

なごや環境大学・学長

愛知学院大学・経済学部・特任教授

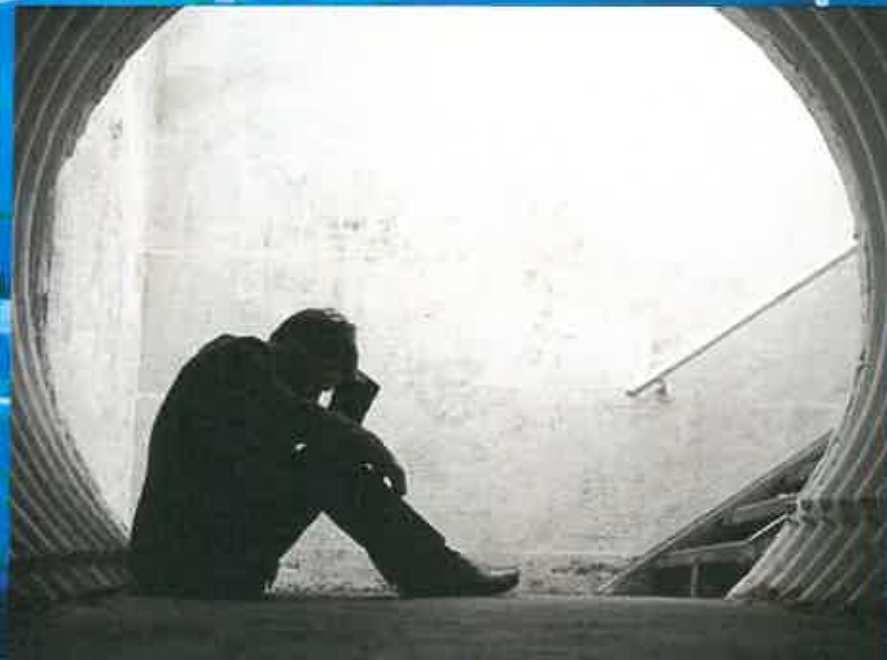
中部大学・中部高等学術研究所・客員教授

東京農業大学・地域環境科学部客員教授

不安の時代

未来への4つの危うさ

- 地球が危ない
- 日本が危ない
- 都市が危ない
- 地方が危ない



1 : 0の世界、デジタルの知財社会は人々に心理的疲れをもたらす。そうした折に人々はフラクタルで機能と明日がシームレスにつながるアナログの世界に癒される。自然とりわけ心身をいやす温泉、非日常の食や酒が新たな明日への挑戦への意欲の源泉となる。

不安な時代・何か新たな社会的激動【例：4つの危機など】が予見される時代 人々は旅に出る！

その旅は、自ずとデスティネーション = Destination (目的や行き先) が明確になる



1492年8月3日、大西洋をインドを目指してスペインパロス港を出航しキューバなどに上陸

クリストファー・コロンブス



1497年7月8日リスボンを出航し欧州からアフリカ南岸を経てインドへ航海した記録に残る最初のヨーロッパ人

ヴァスコ・ダ・ガマ



天正遣欧少年使節、1586年

イエズス会の巡察師ヴァリニャーノの発案で、九州のキリシタン大名、大友、有馬、大村の三侯が、ローマ教皇に遣わした日本人使節。正使が伊東マンショと千々石ミゲル、副使が原マルチノと中浦ジュリアン。いずれも当時13~14歳の少年



支倉常長

慶長18年(1613年)に仙台藩主伊達政宗がフランシスコ会宣教師ルイス・ソテロを正使、支倉常長を副使としてスペイン国王フェリペ3世、およびローマ教皇パウルス5世のもとに派遣した使節



長州五傑

幕末の攘夷熱が高まるなか、5人の若者が密かに横浜港からイギリスに向けて出航

遠藤謹助 (上段左)
野村弥吉 (上段中央)
伊藤俊輔 (上段右)
井上聞多 (下段左)
山尾庸三 (下段右)



ユーリイ・ガガーリン

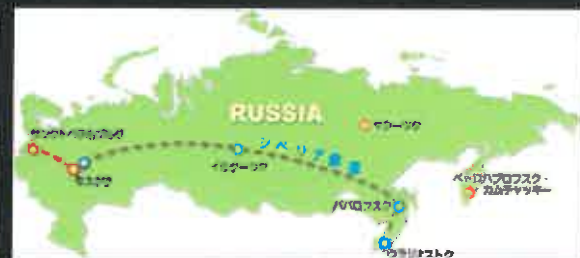
1961年ボストーク1号で世界初の有人宇宙飛行を成功させた人物



米国・アポロ計画でアームストロングとオルドリンは人類として初めて月面に降り立った。

Greyhound Scenicruiser

1/43cu.in.



戦後日本の若者はこそって世界に旅立ち未来への情報を得ようとした！

世界は今、第三の革命「環境革命」の前哨として第4次産業革命時代に！



豊かさを追い求める時代から、深める時代へ！

利益結合型社会から、地縁結合型社会に！！

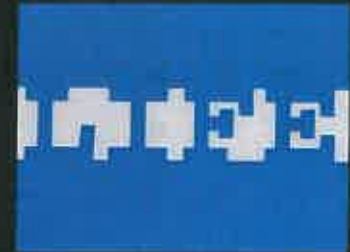
ハビネス・自己実現の追求の時代へ
＝ 感性こそが価値の中心に！

環境革命の時代の発想転換：ネガとポジの転換

産業革命的発想

基盤は成長

社会資本財重視
豊かさを追い求める社会
利益結合型社会
中央集権的國家
まちづくり型



モノ作り型

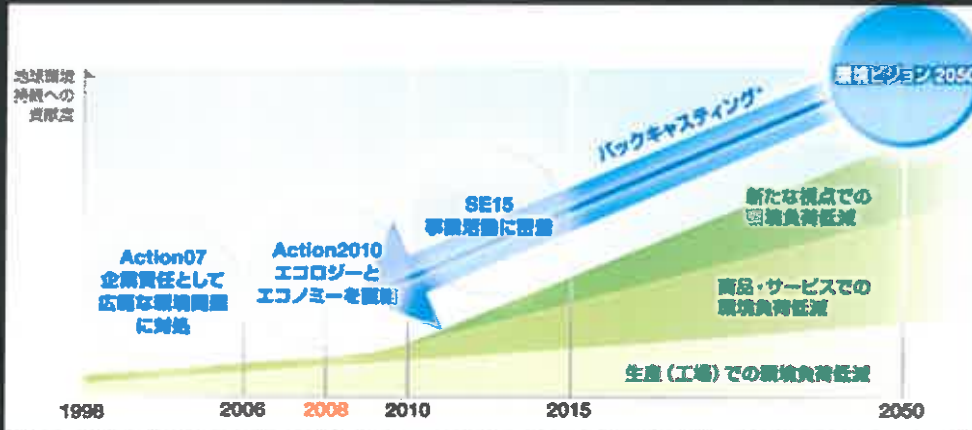


環境革命的発想

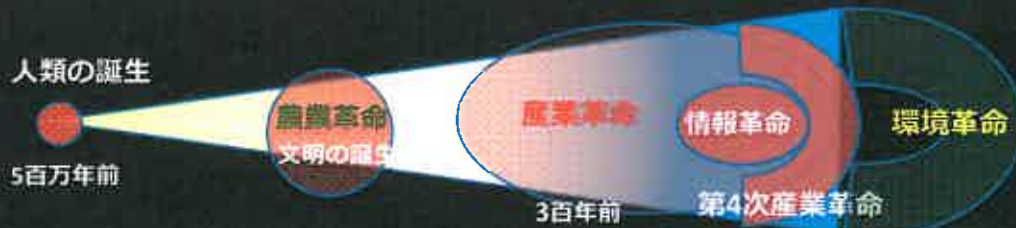
成熟が基盤

自然資本財も重視
豊かさを深める社会
地縁結合型社会
地域個性重視型
自立分節型國家構造
まち残し型

ライフスタイル提案型



！新たなビジネスモデルが必要！＝フォアキャストからバックキャスティングへ！



- ① 人間と自然とのバランス調整、
 - ② 現存世代内でのバランス調整、
 - ③ 将来世代との間のバランス調整、
- 地球の環境容量の限界

という3つの座標軸の中で相互調整を模索していくアプローチが具体的な戦略課題

再生可能資源：消費量を再生量の範囲内におさめる、消費速度 < 再生速度

[枯渇性資源：消費を再生可能資源で代替する、消費速度 < 再生可能資源代替速度]

[環境汚染物質：排出量を分解・吸収・再生の範囲内に最小化、排出量 < 吸収・無害化]

持続可能な社会に相応しいライフスタイル = 創造的社会 = 環境に負荷をかけず自身を解放する

社会学者のリチャード・フロリダ氏は2002年に、地域経済を「創造的階級」の台頭という観点から分析し、世界の知識層のあいたで賛否両論の渦を巻き起こした

私は、これまでの知識資本主義理論は正しくない気がついた。
 結論は、テクノロジーとは「クリエイティビティ」というもっと大きな人間活動の単なるサブセットではないかということだ。
 イノベーションとは技術的なクリエイティビティのことであり、起業家精神とは経済的なクリエイティビティのことだ。ほかにも、芸術的、文化的、政治的なクリエイティビティがある。大きな経済発展を成し遂げた場所は、すべての面でクリエイティビティを備えたところなのだ。
 創造的階級の中核部分にはスーパー・クリエイティブコアと呼ぶに値する科学者、エンジニア、研究開発者と、アーティスト、ミュージシャンなどの文化的クリエイターがいる。そしてその周りに知的労働者がいる。

ただ誤解を避けたいのだが、これはエリート主義ではない。先進国では30~35%の人ひとが創造的階級に属してはいるが、残りの人ひとすべてクリエイティビティにおける潜在的可能性を持っている。資本主義の先にあるシステムを探し当てるキーは、あらゆる人間が創造的グループに属するのだという事実を認識するところにある。

<http://diamond.jp/articles/0334/>



仮想現実

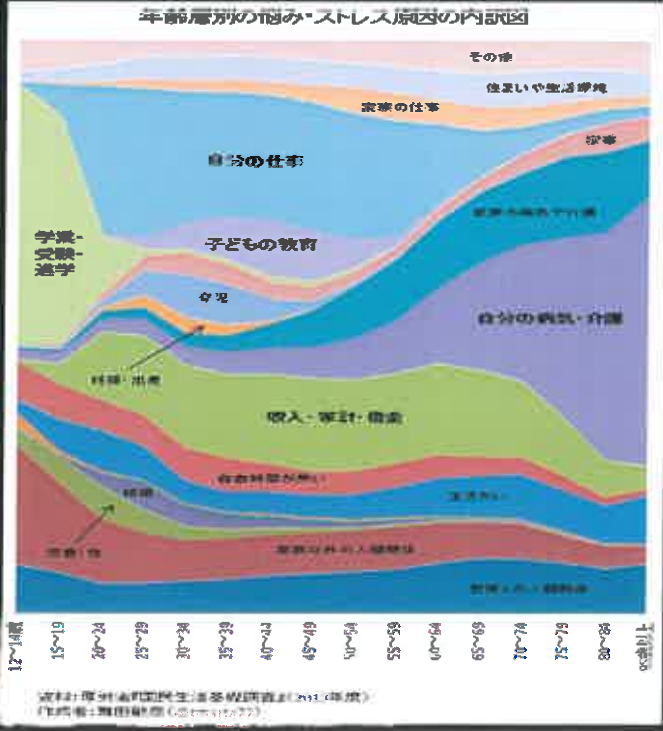
リアリティ

Steve Jobs

仮想社会の到来は、尚更、
 真実や本物の自然に触れる生きものとしての人間、実感的世界を強く求めるようになる！
 世界の最先端の産業は良質な自然に近い立地に成立。
 知識の集積も重要であるが、感性価値がより重要。
 ジョブスはモノを作ったのではなく人の求める感性に応え成功した。

例) ポートランド (米)
 ソフィアアンティボリス (南仏) 等々

創造的活動に自然の中での休養は不可欠



幸福論と健康を尺度にしたライフスタイルの希求と暮らしのデザイン！

スーさん型

豊かさを追い求める巨大都市

利益結合型社会

スピードこそ重要

経済優先

景観型



浜ちゃん型

豊かさを深める地方

地縁結合型社会

スローライフが幸せ

自己実現優先

風景型



$$\text{幸福} = \frac{\text{物的充足}}{\text{物的欲求}} \text{度}$$

$$\text{幸福} = \frac{\text{時間充足}}{\text{自己実現欲求}} \text{度}$$



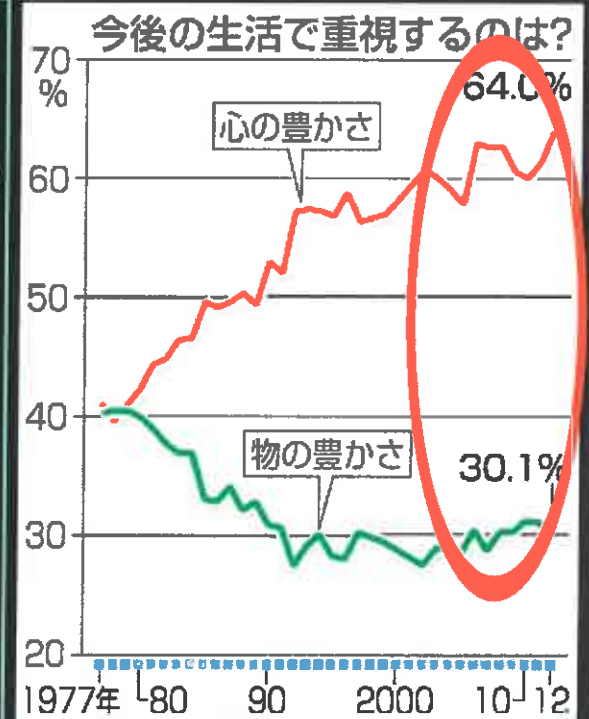
未来の幸福への回答の一つ

- ・ 貧乏なひととは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ
- ・ 根本的な問題は私たちが実行した社会モデルなのです。そして、改めて見直さなければならないのは私たちの生活スタイルだということ。

・ 発展は幸福を阻害するものであってはいけません。
 発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。
 愛情や人間関係、子どもを育てること、友達を持つこと、
 そして必要最低限のものを持つこと。これらをもたらす
 べきなのです。

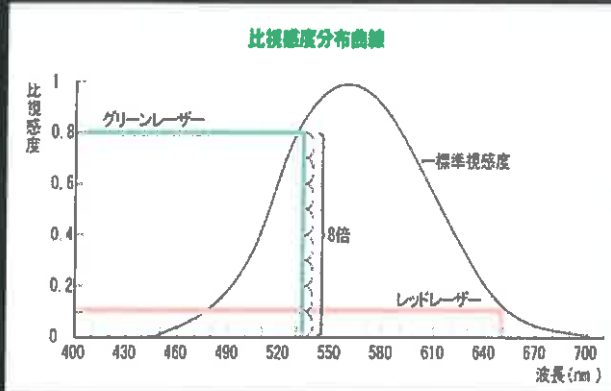
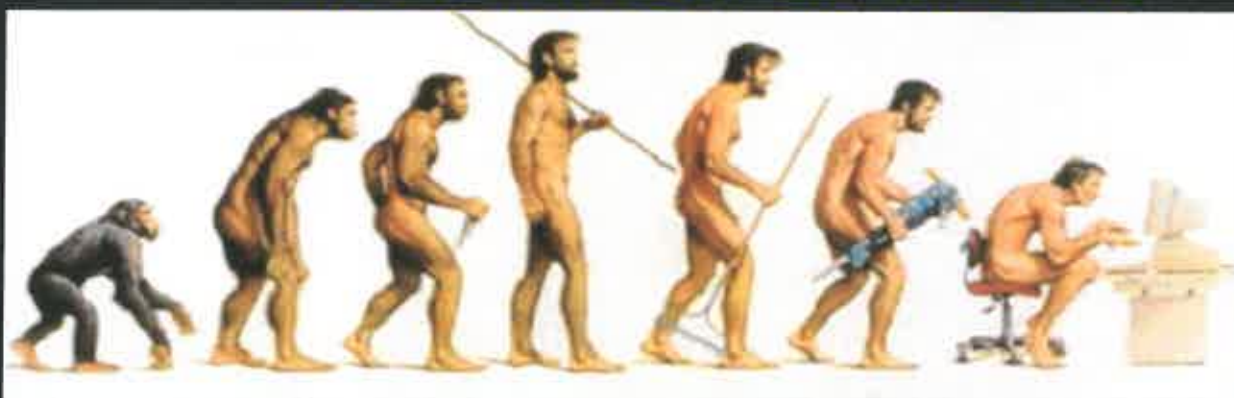
・ 幸福が私たちのもっとも大切なものだからです。
 環境のために戦うのであれば、人類の幸福こそが
 環境の一番大切な要素であるということを知ってお
 かななくてはなりません。

2012年 リオ+20 ウルグアイ元大統領・ムヒカ氏 演説

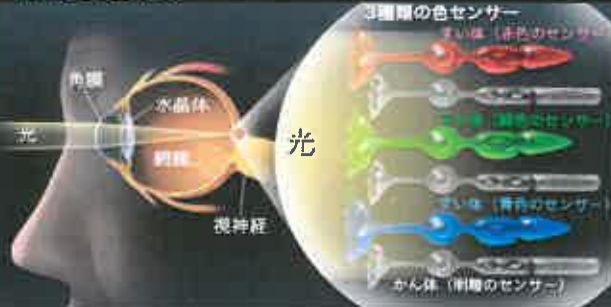


人は森から生まれ、常に緑を友としてきた

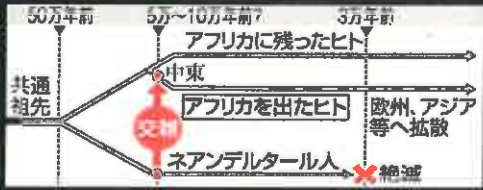
ストレス過多の時代ほど自然との触れ合いを求める



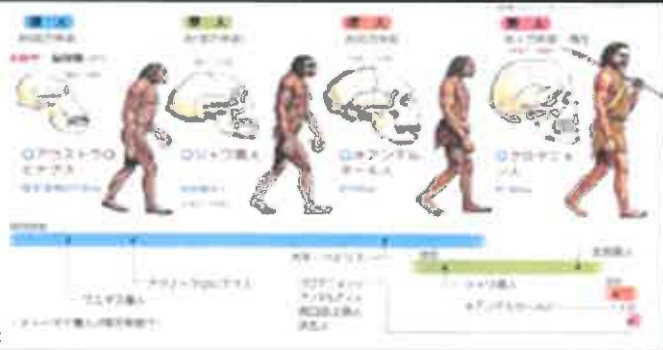
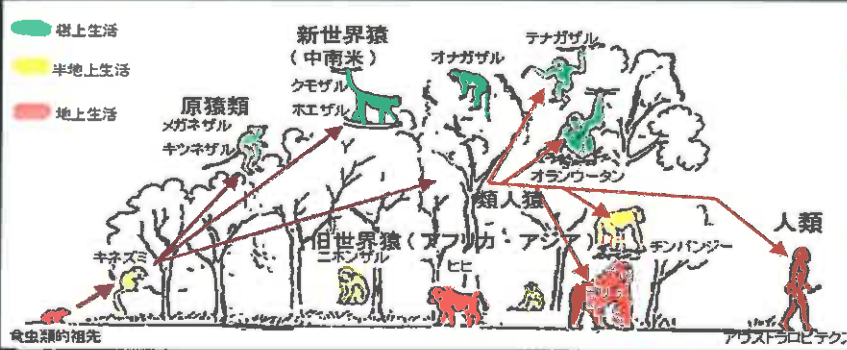
緑の色自体に治癒能力などがある訳では無いが、レーザー光線を目に当てる試験などから、人間の目に一番負担をかけない色、イコール『目に優しい色』と言える。



イラクのシャニダールの洞窟からネアンデルタール人の遺体が一体発見された。その遺体周辺の土の中から植物の花粉が発見され、何種類もの草花が見いだされた。その時代にすでに、人は死人に花を手向けて魂を慰める習慣を持っていたことが明らかにされた。



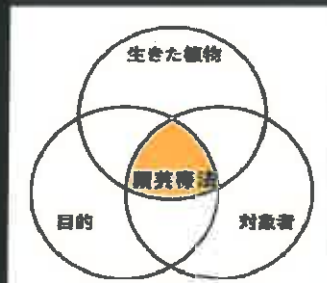
人間の目は「S錐体+M錐体+L錐体」と言う三つの視神経によって色を知覚する。それぞれの錐体毎にピーク波長は異なるが、その三つの合計で知覚した『標準視感度』を基準とした、波長毎の見え易さを比べた『比視感度曲線』からもわかる、真ん中くらいの波長域555nmと言う波長は、人間の目が『緑色』と知覚する波長であり、最も見え易い。



創造型社会の課題 : ストレス = 自然の中で楽しみながら歩く統合的医療・ヘルス・プロモーション行動



植物が発散している揮発性物質を総称して「フィトンチッド」と呼ぶ。フィトンチッドの微粒子は悪臭分子、細菌などと結合して分解消臭するうえに噴霧することで天然のマイナスイオンを発生。NASAの宇宙ステーション開発という最先端の研究でも、フィトンチッドの空気浄化作用が取り入れられている。



ドイツの健康向上公園施設クアパーク

Kur + Ort
治療・療養、
保養のための滞在
場所・地域

||

Kurort
療養地

- 食事療法
- 薬物療法 精神療法
- 運動療法 洗滌療法
- 5つの基本療法



- ### 気候性地形療法における気候の4要素と効果
- 太陽光**
 - ビタミンD₃の合成
 - 骨の強化
 - 免疫力活性
 - 可視光線**
 - 体内の24時間リズムの調整
 - 深い睡眠
 - 清潔な空気**
 - 呼吸器系
 - アレルギーの改善
 - 冷気と風**
 - 持久力強化
 - 免疫システムの改善
 - 血液循環機能アップ
 - 体温調節機能アップ



治療のための散歩道ラインクア



ドイツに整備されている「クアパーク」とは治療のための公園のこと。その使用には「クアの処方箋」が必要となる。公園を治療に利用するクアパークは自然環境を利用する巨大な治療センターである。長い遊歩道や、広い芝生、樹木、水の噴射、噴水、花壇などがあちこちに設置されている。スポーツ施設やサイクリングコースなどもある。療養の人々は、この公園をウォーキングや体操、日光浴、森林浴、呼吸療法、瞑想、リラクゼーション、あるいはジョギング、サイクリングなどに利用する。これらは全て治療法の一つである。

人々が安心できる空間とは？五感が充足されるランドスケープ！

人々は危機を感じると最適な環境を取り戻そうとして花や緑を求める

Landscape

生存を担保してくれる安定した生命圏：自然＝みどり

トポフィーリア(場所愛)



米国地理学者・イーサー・トゥアン

人間はなぜ眺望に魅了されるのか。なぜ故郷に愛着をもつのか。トポフィーリア―“場所愛”。環境と人間との情緒的なつながりを表すこの画期的な概念を提唱。

エドワード・オズボーン・ウィルソン
(Edward Osborne Wilson,)

人間が潜在的に他の生物との結びつきを求める傾向、本能があると主張した。そして自然保護は我々の]バイオフィリアの本能に合致していると主張



最もストレスの無い
幸福感が強く得られる安定域

時間的にも空間的にも生存が脅かされる
ほどの高ストレス状態

時間

RED-Zone(生存の危機)

バイオフィリア
(豊かな生命圏への愛着)



Dr. Keith G. Tidball (Associate
Director of the Civic Ecology Lab. at
Cornell Univ.)

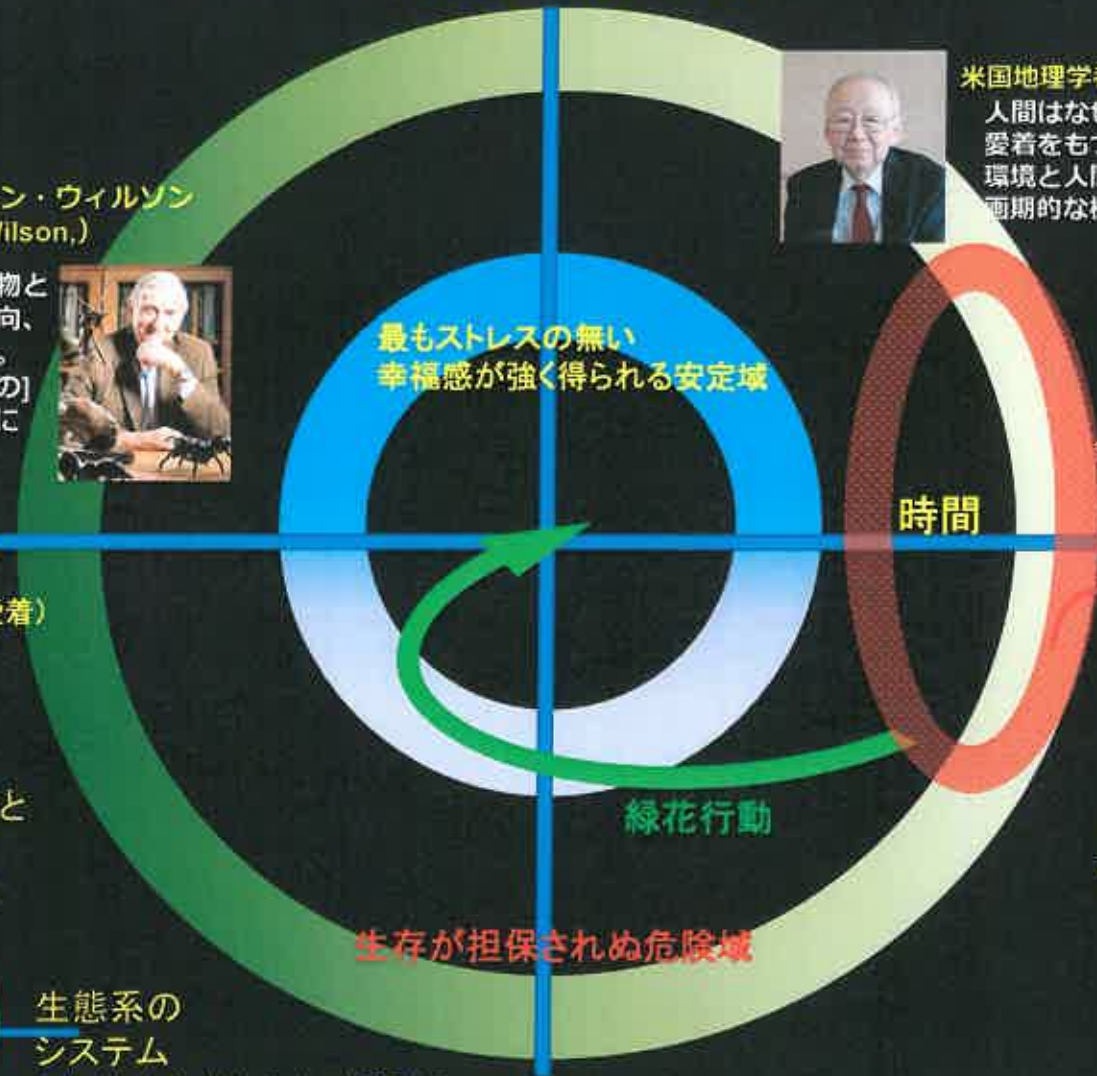
キース・ティッドボール博士
(コーネル大学自然資源学部
上席特別研究員)

人文的
社会環境と
システム
(歴史軸)

緑花行動

生存が担保されぬ危険域

生態系の
システム
(自然を主体とした空間軸)



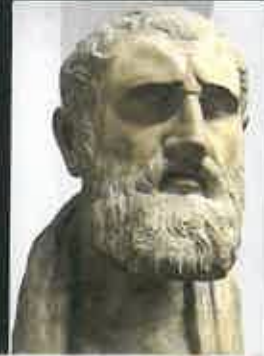
エピキュリアンでもなくストイシズムに偏ることもない多様性を認め寛容なヘルメスを目指そう！



エピキュリアン

紀元前3世紀・エピクロス

現実の煩わしさから解放された状態を「快」として、人生をその追求のみに費やすことを主張した。後世、エピキュリアン=快楽主義者という意味に転化してしまうが、エピクロス自身は肉体的な快楽とは異なる精神的快楽を重視しており、肉体的快楽をむしろ「舌」と考えた。



ストイック

紀元前3世紀・キテオンのゼノン

自然と一致する意志(プロハイレーシスと呼ばれる)を維持することが道徳的なことであるという教説でを唱えた。このため、ストア派は自らの哲学を生活の方法として表し、個々人の哲学を最もよく示すものは発言内容よりも行動内容である



現代には自然を友達にしたリラックスこそ重要

ヘルスプロモーション/ストレスマネジメントが不可欠な時代



過去一年間、1000万人以上の方が精神疾患に罹患し、鬱病は380万人以上が罹患

過去12ヶ月間のうつ病の経験者のうち、精神科医に受診した人は14%、心理職に相談した人は14%、一般医に相談した人は9%であり、7割強の人は医療機関に相談していない

引きこもり児童 = 350~400人に1人



リゾートからリトリートの時代に！

政府の国際観光振興と自然地域

「明日の日本を支える観光ビジョン」～世界が訪れたい日本へ～ 概要

これまでの議論を踏まえた課題

- 我が国の豊潤で多様な観光資源を、誇りを持って引き上げ、その価値を日本人にも外国人にも分かりやすく伝えていくことが必要。
- 観光の力で、地域の雇用を生み出し、人を育て、国際競争力のある生産性の高い観光産業へと変革していくことが必要。
- CIQや宿泊施設、過境・交通・決済など、渡入環境整備を緊急に進めることが必要。
- 高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を楽観できるような社会を築いていくことが必要。

「観光先進国」への「3つの挑戦」と「10の改革」

挑戦1
「観光資源の魅力を高め、地方創生の基盤に」

- 魅力ある公的施設を、ひろく活用、そして世界に開放
- 「文化財」を、「保存優先」から観光資源としての「理解促進」、そして「活用」へ
- 「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ
- おもむき観光で「景観計画」をつくり、美しい景観を

挑戦2
「観光産業を革新し、国際競争力を高め、渡入環境を整備する」

- 古い規制を見直し、生産性を本質的に高める観光産業へ
- 新たな新しい市場を開拓し、長期間滞在と消費拡大を同時に実現
- 疲弊した温泉街や地方都市を、未来志向の観光で再生・活性化

挑戦3
「すべての旅行者に、ストレスなく快適に観光を実現できる環境に」

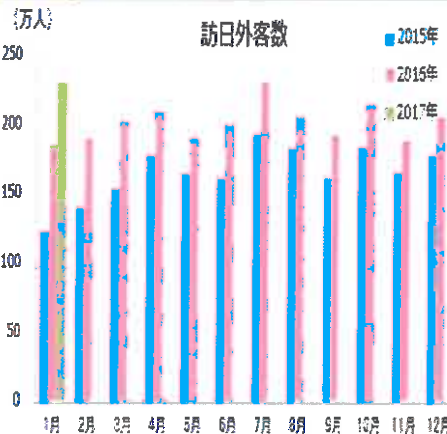
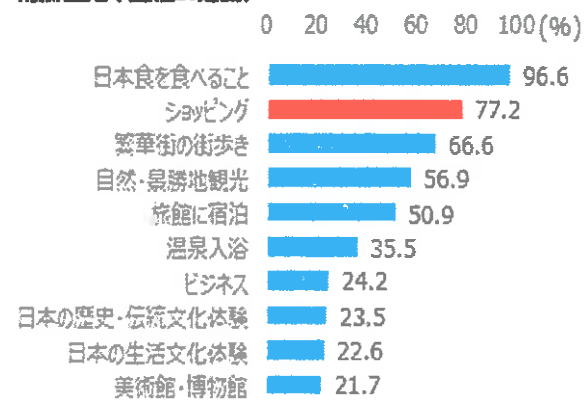
- ソフトインフラを果敢的に改善し、世界一快適な滞在を実現
- 「地方創生回廊」を構築し、全国どこへも快適な旅行を実現
- 「働きかた」と「休みかた」を改善し、輝きあふれる社会を実現

平成28年度観光庁の施策：観光資源の魅力を極め、「地方創生」の礎に！

- 魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放
- 文化財の観光資源としての開花
- 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
- 景観の優れた観光資産の保全・活用による観光地の魅力向上
- 滞在型農山漁村の確立・形成
- 地方の商店街水準への改善
- 東北の観光復興

2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を1千万人に！

図表2 今回の訪日旅行で実施した活動 (複数回答、上位10活動)



旅行・観光競争力ランキング

順位	2015年	2013年	2011年	2009年	2008年
1	スペイン 5.31	スイス 5.68	スイス 5.68	スイス 5.68	スイス 5.68
2	フランス 5.24	ドイツ 5.39	ドイツ 5.30	オーストリア 5.48	オーストリア 5.13
3	ドイツ 5.22	オーストリア 5.39	フランス 5.41	ドイツ 5.41	ドイツ 5.41
4	アメリカ合衆国 5.12	スペイン 5.38	オーストリア 5.41	フランス 5.34	オーストラリア 5.34
5	イギリス 5.12	イギリス 5.38	スウェーデン 5.34	カナダ 5.32	スペイン 5.30
6	スイス 4.99	アメリカ合衆国 5.32	アメリカ合衆国 5.30	スペイン 5.29	イギリス 5.28
7	オーストラリア 4.98	フランス 5.31	イギリス 5.30	スウェーデン 5.28	アメリカ合衆国 5.28
8	イタリア 4.98	カナダ 5.28	スペイン 5.29	アメリカ合衆国 5.28	スウェーデン 5.27
9	日本 4.94	スウェーデン 5.24	カナダ 5.29	オーストラリア 5.24	カナダ 5.26
10	カナダ 4.92	シンガポール 5.23	シンガポール 5.23	シンガポール 5.24	フランス 5.23
11	シンガポール 4.88	オーストラリア 5.17	アイスランド 5.19	イギリス 5.22	アイスランド 5.16
12	オーストリア 4.82	ニュージーランド 5.17	香港 5.19	香港 5.18	フィンランド 5.11
13	香港 4.68	オランダ 5.14	オーストラリア 5.15	オランダ 5.09	デンマーク 5.10
14	オランダ 4.67	香港 5.13	オランダ 5.13	デンマーク 5.08	香港 5.08
15	ポルトガル 4.64	香港 5.11	ルクセンブルク 5.08	フィンランド 5.07	ポルトガル 5.09
16	ニュージーランド 4.64	フィンランド 5.10	デンマーク 5.05	アイスランド 5.07	シンガポール 5.08
17	中国 4.54	フィンランド 5.10	フィンランド 5.02	ポルトガル 5.01	ノルウェー 5.05
18	アイスランド 4.54	ベルギー 5.04	ポルトガル 5.01	アイスランド 4.99	オランダ 5.01
19	アイスランド 4.53	アイスランド 5.01	ニュージーランド 5.00	ノルウェー 4.97	ニュージーランド 4.98
20	ノルウェー 4.52	ポルトガル 5.01	ノルウェー 4.98	ニュージーランド 4.94	ルクセンブルク 4.95
21	ベルギー 4.51	デンマーク 4.98	アイスランド 4.98	キプロス 4.92	アイスランド 4.93
22	フィンランド 4.47	ノルウェー 4.95	日本 4.94	ベルギー 4.92	アイスランド 4.92
23	スウェーデン 4.45	ルクセンブルク 4.93	ベルギー 4.92	ルクセンブルク 4.92	日本 4.90
24	アラブ首長国連邦 4.43	マルク 4.92	キプロス 4.89	ギリシャ 4.91	キプロス 4.87
25	マレーシア 4.41	韓国 4.91	エストニア 4.88	日本 4.91	マルタ 4.86
26	ルクセンブルク 4.38	イタリア 4.90	マルタ 4.88	チェコ 4.88	エストニア 4.85
27	デンマーク 4.38	バルバドス 4.88	イタリア 4.87	エストニア 4.83	ベルギー 4.84
28	ブラジル 4.27	アラブ首長国連邦 4.86	バルバドス 4.84	イタリア 4.78	イタリア 4.84
29	韓国 4.37	キプロス 4.84	ギリシャ 4.76	マルタ 4.77	バルバドス 4.77
30	メキシコ 4.36	エストニア 4.82	アラブ首長国連邦 4.78	バルバドス 4.77	チェコ 4.75

「国立公園満喫プロジェクト」の第1陣に指定された8公園

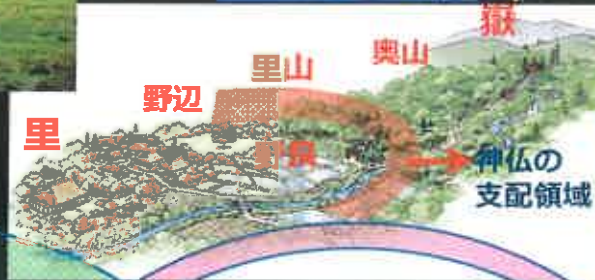


ブランド確立のモデル8公演選定の基準

関係都道府県や市町村が一体となって取り組む体制、DMOなど光推進組織の積極関与、若い世代を含めた人材確保の仕組みなどの他、インバウンド増加を目指す具体的な戦略や計画、マイカー規制等の検証体制の有無などの観点から選定

国立公園には我が国の故郷の価値を見て取ることができる！

= 自然共生の思想 = 郷土への誇り = 地域創生への意欲 = 国際化への対応



(文化の基盤)

風土



(心象)

風景



(視覚的)
景観



市中の山居



又隠 (ゆらいん)

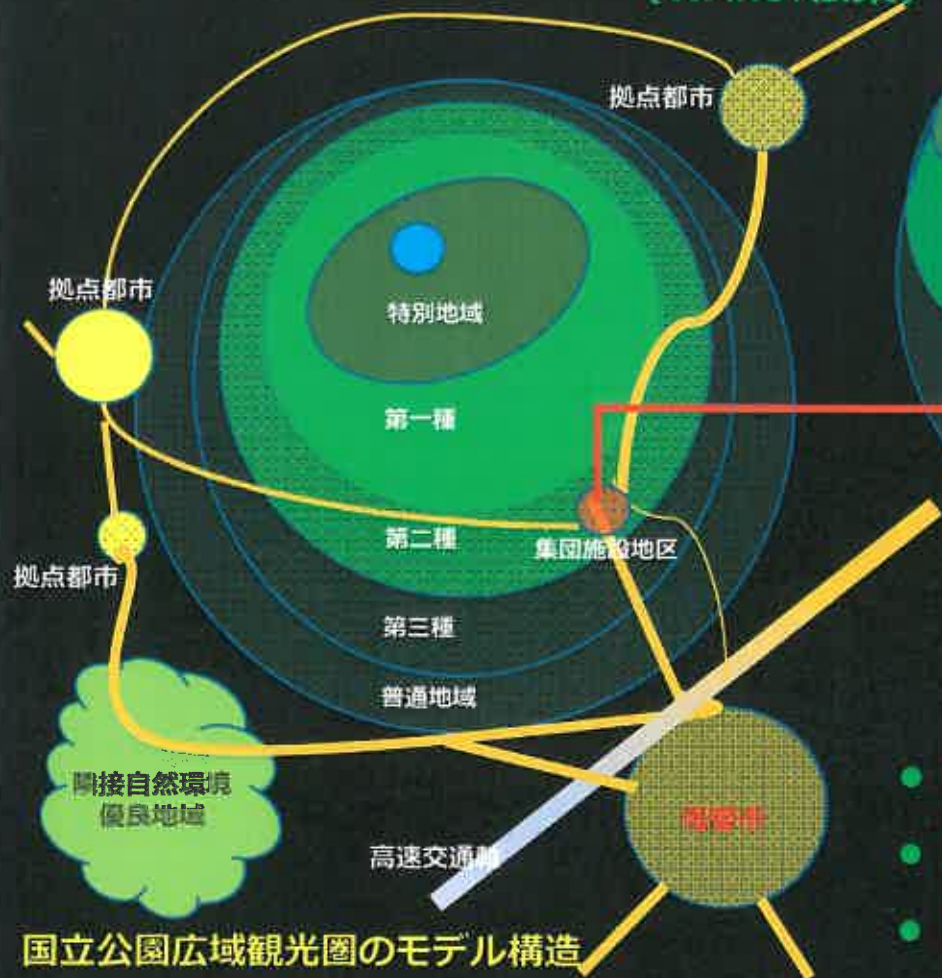
都市

文明圏域

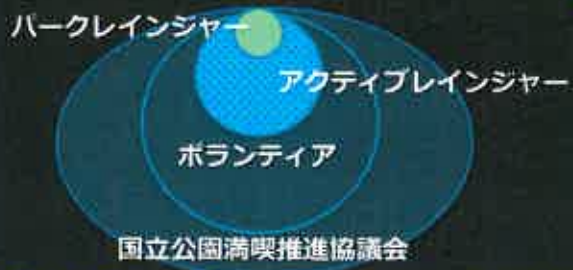


自然と共生したランドスケープこそが日本の個性であり美しさ！

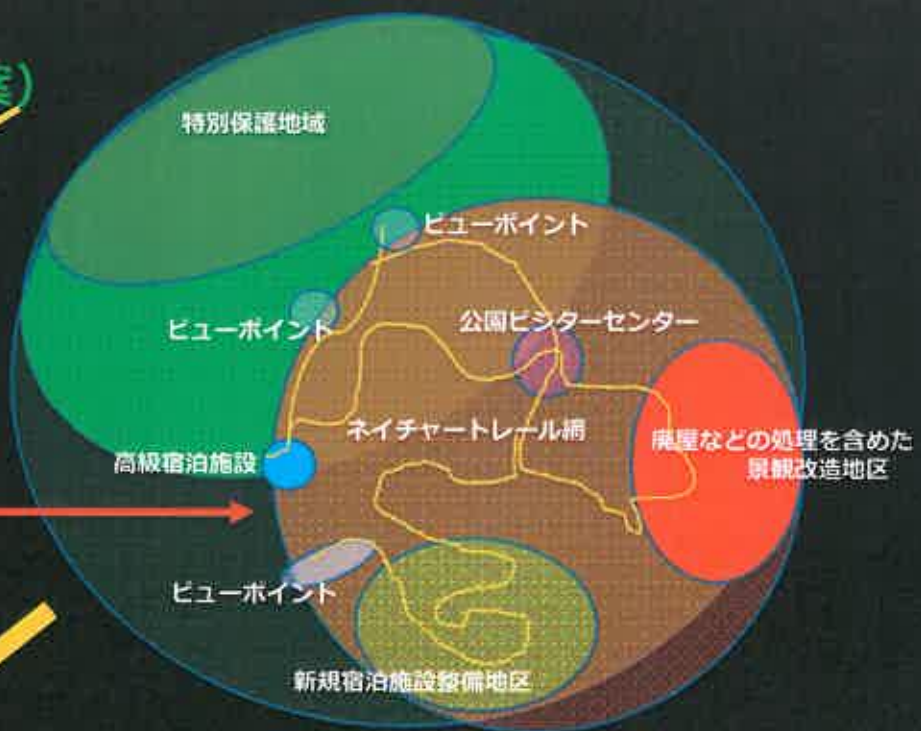
国立公園満喫の魅力向上のための戦略 (WAKUI私案)



国立公園広域観光圏のモデル構造



国立公園の魅力向上のための地域サービス構造



集団施設地区の構造モデル

- 衆から個へのマーチャндаイジング。
- 直線ではなく曲線こそが魅力を誘う！
- 利用者目線での国立公園を核とした広域観光圏のマスタープラン立案を！
- サービス構造を多様化し、地域で支える仕組みづくりを！
- デザインは文化水準を可視化し、明示する存在であることへの認識を深め、サインや標識を含めた景観美に配慮を！
- 温泉と食を一体化した商品開発を！（温泉・ガストロノミー・ツーリズムの振興を！）

ONSEN・ガストロノミー・ツーリズム

ガストロノミー（仏: gastronomie、英: gastronomy）とは

文化と料理の関係を考察することをいう。日本では**美食術**、**美食学**とも訳される。美味しく料理を調理して食べることだけを指すものと、誤って理解されることもあるが、これらは分野の一部にすぎない。ガストロノミーとは、料理を中心として、様々な文化的要素で構成される。すなわち、美術や社会科学、さらにはヒトの消化器官の点から自然科学にも関連がある。

転じて、（料理としての）格が高いフランス料理のレストランや高級食材店名の冠としても用いられる。こうした傾向は、フランス国内の枠だけに留まらず、イタリアなどヨーロッパ各地域の料理においても広く用いられる。

テロワール (Terroir) とは、「土地」を意味するフランス語 *terre* から派生した言葉である。もともとはワイン・コーヒー・茶などの品種における、生育地の地理、地勢、気候による特徴をさすフランス語である。同じ地域の農地は土壌、気候、地形、農業技術が共通するため、作物にその土地特有の性格を与える

身土不二



英・バース・ローマンバス浴場



バーデン・バーデン：フリードリヒス浴場



黒川温泉



野沢温泉大湯

仏・アルザス地方 ガストロノミーウォーキング



ガストロノミーウォーキング Gastronomy Walking
例 フランス・アルザス Marche Gourmande du Kaefferkopf 2016



ブドウ畑

株式会社ANA総合研究所

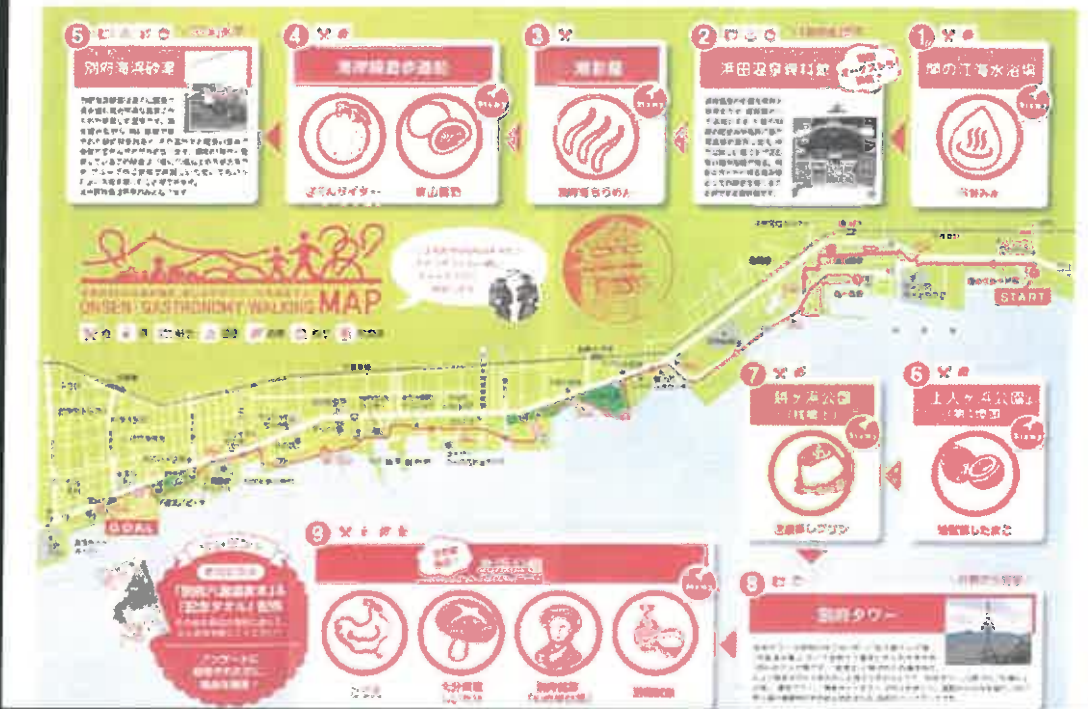
ANA



コルマール

ONSEN・ガストロノミー・ウォーキング別府

ONSEN・ガストロノミーウォーキング IN 別府 2016年11月19日





順路

ONSEN・ガストロノミー

ウォーキングIN別府

2020年東京オリンピックを契機に日本の伝統的文化と自然共生の思想を世界化する好機ととらえる！

自然共生の思想が空間化されている姿を世界に = オリンピックレガシーの一つ = インバウンドの人々に日本の本質を知らしめる

プリセット

我が国の将来像を構想すると、アジアの主役の地位を不動のものとするために、2020年を契機に、第4次産業革命に対応でき得る、クリエイティブでイノベティブな機能を備えた都市を育てる方向を指向せねばならない。



世界平和への願望 戦後世界への復帰

目標

- ・オリンピックを契機に、我が国の弱点である、持続的未來を支えるに相応しいレジリエンス性の高い都市と地方を計画的に実現させることは、あらゆる面での国際競争力を高める事に繋がる。
- ・東京を国際的都市間競争の勝者と位置付けるために、東京を世界最先端の「ワイスシティ」にしつらえることを目標とし、東京の弱点を補い、東京を支えるための、MICE機能や宿泊機能の充実を図り、且つストレスフルで快適な都市環境をモデル的に実現する。
- ・例えば、歩行者と自転車、パーソナルモビリティや公共交通機関が共存したマルチモーダルシステムをいち早く完成させる。
- ・「みどり」の効用に着目し、市民・住民が積極的にその空間質の維持・向上に参加しつつ、市民協働の構築が図られる公園や緑地を具体化させる。

環境思想

世界が抱える地球的課題に対し、都市や国土から「江戸に学んだある種のモデル」を示し、都市の未來を示す課題解決先進国の姿を実現。自然を楽しみ、自然を敬った。身土不二の思想や濁治など緊張と弛緩を巧みに組み合わせ「遊びをせんとや生まれけむ」と人生を謳歌し、自然が最上の人生の基礎と認識し、手抜きなく労働奉仕を怠らなかつた。

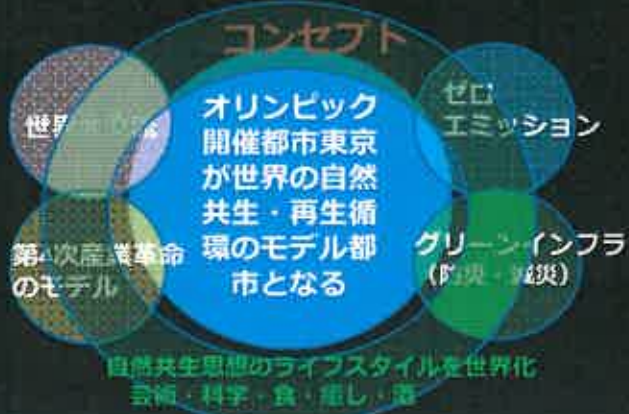
日本が地球環境の課題解決に貢献する「新産業創生」をオリンピック・レガシーとして世界に発進！



The Fourth Industrial Revolution

グリーンインフラを備えた防災・減災型都市

マルチモーダルシステム、ニュートラフィック



自然共生を重視しつつ、2030年問題を克服し、国際競争力のある日本と東京を創出する。「江戸」の再評価と現代的再現を！ + 災害に対する「レジリエンス性」を。

ONSEN・ガストロノミーツーリズム 推進機構 発足

今後のスケジュール



目的

温泉と食をウォーキングで、歩いた目線で地域の食や景観、自然そのものを体感していく、そういった運動を推進していくことが目的であり、温泉地の価値を潜在型・体験型の観光の宿泊拠点へと転換させていき、日本のすばらしい食を通じたあらたな体験を、インバウンドを含めた観光客に提供し、地域交流を活性化していくことが本機構の目指すところ。

○かつて「湯治場」と呼ばれていた地域が消滅することは大きな問題であり、インバウンドも含めて多くの人があらためて湯治の習慣に触れ、長期滞在してもらえるような交流が起きれば望ましい。

○日本でもその土地ならではのものを食べることが人間の健康にとって良いという考えを踏まえ、自然・食文化と接して、自分のストレスをマネジメントしていくことが日本の歴史にはある。

○将来、『温泉』が単なる日本語ではなく、こうした食文化を楽しみ、地域を称揚する日本人ならではのヘルスツーリズムとして『ONSEN』という国際語になっていく未来を描いていく。

皆様ご清聴ありがとうございました。

我が国の未来を照らし出す

「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」を今後ともご支援くださいませ。

2017年度 ONSEN・ガストロノミーウォーキングイベント計画書

2017年3月30日現在

開催市県	地区	主要温泉名	ステータス	イベント実施日	
1	秋田	仙北市	乳頭温泉	イベント実施決定	7 8 (土)
2	秋田	大館市	六郎温泉郷	イベント実施決定	6 10 (土)
3	新潟	新潟市	岩室温泉	イベント実施決定	7 1 (土)
4	青森	弘前市	青森泉	イベント実施決定	9 18 (月・祝日)
5	北海道	弟子屈町	川湯温泉	イベント実施決定	10 21日(土)・22日(日)
6	熊本	天草市	下田温泉	イベント実施決定	5 27 (土)
7	山口県	長門市	原山温泉	イベント実施決定	11 未定+7 13~14フチャイベント
8	熊本	上天草市	上天草温泉	イベント実施決定	11 5 (日)
9	岐阜	下呂市	下呂温泉	イベント実施決定	10月予定
10	福島	会津若松市	栗山温泉	イベント実施決定	10月~11月予定
11	山形	上山町	かみのやま温泉	イベント実施決定	未定
12	大分	由布市	由布院温泉	未定	未定
13	大分	国東市(別府市)		未定	10 週1週または週2週
14	大分	竹田市	長瀬温泉	未定	未定
15	熊本	阿蘇市	内牧温泉	イベント実施決定	5 20 (土)
16	鹿児島	薩摩川内市	市比野・川内高城温泉	未定	暫定2月頃
17	鹿児島	鹿儿岛市		未定	2018年度実施予定
18	群馬	みなかみ町	水上温泉	未定	未定
19	石川	加賀市	山中温泉	イベント実施決定	11 23 (木・祝)
20	千葉	鴨川市	鴨川温泉	未定	未定
21	島根	大田市	湯梨津・三郷温泉	未定	未定
22	沖縄			未定	未定
23	京都	京丹後市		未定	未定
24	神奈川	箱根町	箱根温泉(一の湯)	未定	未定
25	長野	軽井沢町		未定	未定
26	長野	松山市	湯後温泉	未定	未定

一般社団法人ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構 (2016年10月5日設立)

会長	涌井 史郎	東京都市大学・特別教授
副会長	久保 成人	公益社団法人日本観光振興協会理事長
副会長	久保 征一郎	株式会社ぐるなび代表取締役社長
副会長	浜田 健一郎	株式会社ANA総合研究所シニアフェロー
理事長	見並 陽一	株式会社びゅうトラベルサービス顧問
専務理事	小川 正人	株式会社ANA総合研究所会長
常務理事	本橋 勉	株式会社ぐるなび常務執行役員
理事	阿部 宗広	一般財団法人自然公園財団専務理事
理事	大西 倉雄	国民保養温泉地協議会会長(長門市長)
監事	中村 慎一	公益社団法人日本観光振興協会国際交流推進室長

特別協力 公益社団法人日本観光振興協会

設立時会員企業 株式会社ANA総合研究所
株式会社ぐるなび

事務局 株式会社ANA総合研究所
事務局長 野村達男
事業推進部 部長 大山芳香、小林 誠
企画部 部長 佐藤 恵、高里小路 典子、川島 政美